

# 船舶事故調査報告書

平成30年9月19日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	平成30年4月22日 10時10分ごろ
発生場所	香川県高松市香東川河口付近 弦打港東防波堤灯台から真方位128° 350m付近 (概位 北緯34° 21.3′ 東経134° 01.3′)
事故の概要	プレジャーボート幸栄丸は、東南東進中、浅所に乗り揚げた。
事故調査の経過	平成30年5月7日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 幸栄丸、5トン未満（7.17m）
船舶番号、船舶所有者等	281-26267香川、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	機関に濡損等
気象・海象	気象：天気 霧、風向 北、風力 1、視界 不良、視程 約50m 海象：海上 平穏、潮汐 低潮時、潮流 西流約0.6ノット（kn） 高松市には、平成30年4月22日02時23分に濃霧注意報が発表され、本事故時も継続中であった。
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、高松市小槌島付近の釣り場に向けて香東川西方沖を航行していたところ、霧で視界が悪くなってきたので、約3.0knの対地速力に減速し、帰港しようと反転して香東川河口付近を東南東進中、浅所に乗り揚げた。</p> <p>船長は、自力で離洲しようと主機を後進としたところ、船尾部が傾斜して低くなっていたので、後部甲板から海水が流入し、水船状態となった。</p> <p>船長は、本事故当時、陸岸が見えなかったものの、視界が悪くなる前に見た弦打港東防波堤灯台の位置から推察し、出港地の高松市高松漁港に向かっていると思って航行を続けていた。</p> <p>本船は、GPSプロッター及びレーダーを備えていなかった。</p> <p>船長は、救命胴衣を着用していた。</p>
分析	本船は、香東川河口付近において、霧で周囲が見えない状況下、船長が、視界が悪くなる前に見た灯台の位置から推察して高松漁港に向かっていると思い、船位が確認できない状況で航行を続けたことから、同川河口付近の浅所に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、香東川河口付近において、霧で周囲が見えない状況下、船長が、視界が悪くなる前に見た灯台の位置から推察して高松漁港に向かっていると思い、船位が確認できない状況で航行を続け

	たため、同川河口付近の浅所に乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GPSプロッター及びレーダー等を備えていない船舶は、霧で視界制限状態になった場合、停船して霧が晴れるまで待機すること。</li> <li>・浅所に乗り揚げた航行できなくなった場合、無理に自力で離礁せず、高潮になるまで待機するか、海上保安庁に通報し、救助を依頼すること。</li> </ul>